

巻・頭・言

技術者が、豊かな社会を支え続けるために

皆さんはZ世代とそれに続くα世代という言葉を知っていますか。ガラケイからスマホへの買替えが一挙に進んだ2012年に生まれているか否かで、世代が分けられています。今の大学生はZ世代。彼らの特徴としてコストパフォーマンスからタイムパフォーマンス重視への変化がいられています。大学の就職担当教員が、就職して数年で会社を辞めてしまった卒業生にその理由を聞いたところ、「働く環境がぬるま湯状態でタイムパフォーマンスが悪いから」といわれ驚いていました。コロナ禍がデジタル化を加速させて、人びとの働き方、暮らし方、住まい方も変わりつつありますが、この価値観の変化は行動変化を伴うものです。

交通に関係した私の経験を紹介します。2023年3月、第7回全国幹線旅客純流動調査(国土交通省)の委員会が建設系研究者の参加により行われました。この調査は、都道府県を超える国内外の旅客流動を把握するため、1990年度から5年に1回の頻度で実施されています。委員会では、2025年度の調査からこれまでのアンケート調査にモバイル空間統計データを融合させて行うことが検討されました。スマホの位置情報に代表されるモバイル空間統計データは、コロナ禍において三蜜な場所の特定に利用されたため多くの人の知るところです。このデータには移動目的(観光かビジネスか)が把握できないなどの問題もあります。委員会での論点は、道路・港湾などの交通社会基盤を造ることに加えて、これからの時代には交通混雑回避・ダイナミックな料金設定・災害時の避難誘導などの交通社会基盤を使うことの重要性でありました。モバイル空間統計データを用いて旅客流動を検出、検出された大量データの処理と将来予測、行動変化を促す予測結果

田村 亨(たむら とおる)
技術士(建設/総合技術監理部門)

公益社団法人日本技術士会北海道本部
社会活動委員会
北海道インフラ技術政策研究委員会
代表



の移動者へ通知という流れを、情報技術分野ではセンシング、プロセッシング、アクチュエーションといいます。社会基盤を使う時代は即時性のあるアクチュエーション技術が重要であると、若い研究者達はこの流れを、情報技術分野ではセンシング、プロセッシング、アクチュエーションと

いいです。社会基盤を使う時代は即時性のあるアクチュエーション技術が重要であると、若い研究者達はいうのです。
ところで、将来の人びとの価値観は予測できませんが、よりよき社会のビジョンを示すことはできそうです。トラックドライバー不足やカーボンニュートラルへの対応は、自動運転などの要素技術を使ってその一部を改善できます。交通管制と道路計画に関わるデータのオープン化が図られれば、流入規制や混雑料金の導入、違法車排除による自転車レーンの設置や道路空間の有効利用も進むでしょう。地方部のモビリティとして、自動運転などの新しい技術も組み込んで、公共交通サービスをどのように支えていくか、そこでは官と民が連携するPFIやPPPが模索されています。

かつて北海道経済連合会会長を務めた戸田一夫氏は電気工学の技術者です。1990年代前半に北海道産業クラスター事業を提案し自らが実践していたとき、「技術は豊かさそのものを提供することはできないが、豊さを支えることはできる」と唱えました。その意図は、衰退する地方部において農林水産物を1次産品として出荷するだけでなく、2次産品として地元で加工する技術を育もうというものです。今、建設業を含めた製造業のサービス産業化(3次産業化)がいられています。我われ技術者には、進んだモノを造るための要素技術の深化とともに、新たな価値の創造と社会そのものの変革を見据えたイノベーションについて戦略的に身に付けることが求められています。この新しい流れを、北海道から先行させたいものです。